

令和7年度 第1回 平塚市美術館協議会 会議録

■開催日時 令和7年8月29日(金) 14時00分～16時00分

■開催場所 平塚市美術館 研修室

■出席者 委員 榑山昌夫、吉村維元、土屋浩明、田中伸一、高橋孝祥、清田靖子（敬称略）

＜欠席者＞小松誉、木村一彦（敬称略）

事務局 石川社会教育部長、加藤特別館長、小澤館長、勝山学芸担当長、江口学芸員、
家田学芸員、安部学芸員、鈴木学芸員、上家管理担当長、平本主管

■傍聴者 なし

■会議次第

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 社会教育部長あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 職員紹介
- 6 平塚市美術館協議会について
- 7 「原良介展」「よみがえる絵画展」観覧
- 8 議題
 - (1) 正・副会長の選出について
 - (2) 今後のスケジュールについて
 - (3) 令和7年度事業について（これまでの事業報告及び今後の事業予定）事務局から説明
・作品 ・展覧会 ・教育普及 ・その他の事業 ・施設利用者等の統計
 - (4) その他
・改修
- 9 閉会

■委嘱状の交付

社会教育部長から委員へ委嘱状の交付を行う。

■社会教育部長あいさつ

委員会開催にあたり、社会教育部長からあいさつ。

■議題及び質疑

- (1) 正副会長の選出について
会長に吉村維元委員、副会長に高橋孝祥委員を全員一致で承認し、選出した。
- (2) 今後のスケジュールについて
協議会委員の2年間の任期中の会議開催予定について事務局から説明した。
- (3) 令和7年度事業について（これまでの事業報告及び今後の事業予定）
今年度これまでの展覧会事業、教育普及事業について、内容・会期・関連事業のほか、施設利用者の統計と下半期の展覧会事業の内容・会期・関連事業等、教育普及事業の主なワークショップの内容等を事務局から説明した。
- (4) その他
今後予定している改修について、経緯、基本計画の策定、基本設計の着手、実施設計の策定予定を事務局から説明した。

(質疑)

委員 今開催の展覧会、協議会前にじっくりと拝見させていただきました。

なかなか綺麗な会場で、原さんの企画が充実していて、図録もよくできていると思います。会場で図録を見たら、1冊1,200円で販売されていて、よく価格を抑えたなという感じがしました。今何冊くらい売れているのでしょうか。

事務局 販売部数は400です。現段階の販売状況は手元に控えておりません。

委員 販売数は不要です。気になった点として、この図録は記録をちゃんと取っておこうとのことで展覧会場の写真をきちんと入れて、しかもバイリンガルで作って、作家の今後の資料としても役立つという、その趣旨はよくわかったのですが、発行日は7月31日の会期半ばだったので、6月14日スタートの展覧会で7月末までの1ヶ月半のギャップというのはちょっと長かったかなというように感じました。ただ400冊の発行ということでしたので、残りの会期でもそれなりに数的にはつつまが合うのかなあと思い、お聞きしたところなのですが、図録が発行されるまではお客様にはどういう対応をされたのですか。予約販売みたいな感じですか。

事務局 予約販売をさせていただきました。

委員 予約販売というのは、送料は美術館が御負担されたのですか？

事務局 はい。今回予定よりもやはり若干遅れたというのは御指摘のとおりでございますので、その分送料を負担させていただきました。

委員 先ほどご説明いただいた教育普及事業で、今年度も開催されましたが、夏休み特別ワークショップイベントを3日間行われて、大変ご苦勞様でした。先ほど日ごとの延べ人数を教えていただいたのですが、この企画は昨年度から始まったと思うのですが、昨年度との比較でいうとどのような感じになるのですか。

事務局 3日間、おひとりに1枚ずつの用紙をお渡しし、館内各所のスタンプを押して回ってきってもらうスタンプラリーを実施しました。その用紙の配布枚数が参加者数の実態に近いかなと考えています。1日目が101人、2日目が146人、3日目が70人です。昨年度の配布枚数は2日間で70枚くらいでしたので、1日につき3割増しから倍くらいの計算になります。

委員 今年は少し天候も良くなかったことを踏まえると、早くも皆様方に割と定着してきているのかな。講座の内容も何か充実してきているような印象を受けました。

事務局 このワークショップに関しては、広報ひらつかでも取り扱いがあったことと同時に展覧会も同じ名称で実施していますので、様々な場所で目にすることがあったのではないかと思います。

事務局 定着してきたことと合わせ、実際に来られた方とのお話の中で、今まで当館を知らなかったご家族がお見えになって、初めて当館にいらっしゃったご家族連れ、もしくはおじいちゃんおばあちゃんと一緒に来た方というのがいらっしゃっていただいたことは、大きな成果の1つかなと思い、アンケートをとらなかったことを後悔した一瞬でございました。

委員 そういう意味では、昨今酷暑ともいえる暑い時期に実施するのは、いろいろな対策とか講じなければいなくて大変だと思うのですが、お盆の時期に絡めて、そういった家族連れが今後も増えていくといいなあという感じですね。

事務局 ありがとうございます。開催の時期ですが、学校が夏休みに入って、ちょうどお盆に入る前の時期にあたります。参加する人にとっては、今日はどこへ行こうかなと、遊ぶ場所を探すような時期でちょうど良いのかもしれないと考えています。

委員 先ほどの中村正義展の御説明で、ドキュメンタリー映画を上映しましたとありましたが、去年は落谷虹児さんの展覧会の時も同じミュージアムホールで映画を上映していたと思います。

こういった映像作品をミュージアムホールで上映しているのはあまり過去に例がなかったように思うのですが、このねらいは何でしょうか。

事務局 昨年度から今年度にかけて、しばしば映像作品を上映してきております。

今年度の春は 105 分という長さの映画作品である中村正義のドキュメンタリー、昨年度は落谷虹児で東映動画初のカラーアニメーション、そして昨夏には前衛映画作家のジョナス・メカスの映像作品を上映しております。これらの映像作品の上映で、特にメカスなどはそうだったのですが、映画だけを見にいらっしゃる、映画のためにいらっしゃるという来館者もおられ、アンケートなどでも想定以上に御好評をいただきました。

そうした映像作品の上映によって、展覧会の内容理解を深めていただくという従来の用い方だけではなくて、来館者層ではない映画やアニメファンの方にも美術館にお越しいただききっかけにする、そして、特に落谷虹児などは、アニメにも関わっていくということを紹介する、ジャンルを横断する作家の幅広い活動を総合的にご紹介する、というようなことも積極的に行っていくようにしております。

それぞれの上映会によって目的やねらいは多少異なるものはあるのですが、基本的にはより幅広い展示をさせていただくことで、来館者層の幅を広げていくことが基本的な目的になります。

委員 ジョナス・メカスさんはリトアニアで有名な作家ですが、落谷虹児さんの夢見童子はジブリのもとになったのではないかとされているようなすごい作品で、そういった作品にしっかりと注目して取り上げているのは非常にいいことだと思います。

事務局 こういう機会を持つことやジャンルの幅を広げることで、平塚市内の他の劇場や施設との連携など可能性も出てくるのではないかと考えておりますので、制限を設けずにいろいろ幅広く考えていきたいと考えています。

委員 改修について伺いたいのですが、絵画作品をはじめ、美術品はとてもデリケートだと思います。改修をするとすると、所蔵作品は結構膨大な数になると思うのですけれども、それについてはどのような方法で対応されるのですか。

事務局 基本的に美術作品に関しては、美術作品に適合した外部倉庫の契約をしまして、そこに輸送をし、必要な期間保管をすることを考えております。美術品収蔵庫に準じた条件を満たした、低温低湿であり、ガス消火であること、その他を条件に倉庫を探しています。理想を言えば総合のエリア貸しではなく、専用の一室があると良いのですが、中々難しい状況ではあります。基本的に美術館の収蔵庫に準じた条件で今探しています。

委員 この改修について、長寿命化ということですが、この改修をするとその後大体どのぐらいこの建物は使用可能というようにお考えなのでしょうか。

事務局 本市には公共施設等総合管理計画がございまして、公共施設、特に鉄筋コンクリート、RC 造や SRC 造といったものについては、大体 76 年使うというような目標があります。この計画では 20 年、40 年、60 年目にそれぞれある程度の改修をするというような指標があります。

本館は先ほどご説明をさせていただいたとおり 34 年を経過していますが、20 年目の改修をしてこなかった経緯があり、40 年目に向けていわゆる大規模改修というものを今回計画しています。

そこで防水層や屋上防水、外壁防水、それから電気設備、空調をはじめとした機械設備、そういったものを一度に改修して、今後 40 年を持たせるような改修を考えています。ですので、お尋ねに関しては 40 年ほどというようなお答えになろうかと思います。

委 員 ハードについて 40 年ということをお聞きしたので、さらに質問させていただきたい。これまでの 33 年の活動で、今、収蔵庫の使用率はどのくらいになっているのでしょうか。

事務局 ほぼ 80%から 90%ぐらいと考えています。満杯でどうにもならないという状況ではないですが 80%程度にはなっています。80%から 90%というのは、置き方によってはということにはなりませんが、正確に出しているというよりも、非常に感覚的な数字ではあります。

委 員 あと 40 年、残り 20%で何とか間に合わせるというのが平塚市のご計画ということでよろしいでしょうか。

事務局 作品の収集ペースは中々将来的に見通せないところがありますが、今後それで全部済ませられるかどうかについては、やはり早いうちから議論をある程度始められると理想的かなと考えています。例えば、ここでの収蔵が難しい場合には外部の倉庫を借りるとか、さらに次の改修で新たな倉庫を作るとか。中々難しいところはあると思いますが、いろいろな可能性を含めて、何らかの収蔵庫対策というのは、当館ではまだ喫緊の課題になっている状況ではないのですが、いずれ来る問題として認識はしております。

委 員 ソフト面についてですが、令和 9 年 1 月に休館開始ということは、もう来年度のことなのですね。休館の間のいわゆる美術館の活動というのは、もちろん建物は使えない状況でしょうけれども、学芸員の皆さんが市民とどういった活動をされていくのか、こうしたソフトのことも予算の対応は今年度中にしなければいけないと思うのですが、どのようにお考えでしょうか。

事務局 基本的に普及事業が中心になってくるだろうと考えております。
展覧会も考えられなくはないのですが、現代作家で温湿度等を考えないで済むような方、インスタレーションとかそういったものが可能であれば、展示も想定はしたいとは考えており、そういった作家の候補もあげつつ、現在検討しているところです。
ワークショップ等についても、外だからこそできることを考えられないかと教育普及チームが案を出しあって練っているところです。

もう 1 つは内に向けてのプログラムといいますか、資料の整理、収蔵作品データの整備、それから例えば収蔵作品の図録（紙ベースで出すかどうかは未定ですが）の準備など、休館だからこそできるような研究的な事業も大きな課題の一つとして考えたいと思っています。

事務局 予算の話になりますが、来年度の 1 月頃からの休館を考えています。来年度の 1 月から 3 月までは、恐らく引越や収蔵品の運び出しがメインとなると思いますので、具体的な外部での普及活動をするための予算は、令和 9 年度からの話になると整理をしているところです。

事務局 あと美術館は公共施設の役割として、市民の発表の場としての機能も持っていますので、そういった部分につきましては、既存の他の公共施設ですとか、民間の施設ですとか、どういったものをご用意できるか、今各方面と調整をしているところです。

委 員 今のお話に関連するのですが、我々は市民アートギャラリーを頻繁に使用しているので、提案というかお願いがあります。施設が長期間利用できなくなるとのことです、今その代替施設の検討をされているとのことですが、元々展示用に作られている施設に比べて、単純にスペースだけはあるけれど絵画などを展示するために作られたわけではない施設だと、使い勝手とかスペースとか

いろいろ不安があるので、できれば密に調整をお願いしたいなと思っています。

例えば文化芸術ホールの1階も候補に上がっているみたいですが、うちの協会のメンバーの中でも、やはりアートギャラリーと比べるとスペースなど少し不安視しているところがあります。できるかわからないですけども、当然我々の協会だけではなくて、ギャラリーを使われている団体の方はたくさんいらっしゃいますので、できれば事あるごとにというか、密により歩み寄れるような場みたいなものを作っていただければ、また利用者ともうまいこと調整できるような方法をちょっと考えていただければなというように考えています。

あと当然改修というのなら、市民アートギャラリーもある程度改善というか改修されると思っているのですが、せつかくの機会なので、我々とか他の団体さんにも、今まで使っていてイマイチだった部分が、何か改修によって多少でも改善できるようなのであれば、聞き取りをしていただくのもいいのかなというように考えています。

細かい話になってしまうのですが、この間、うちの協会の展覧会を開催したときにメンバーから「市民アートギャラリーは照明暗いよね」という話が出て、意図的にそうしているのかそれとも何らかの理由で明るさを落とさざるを得ない理由があるのか分からなかったのですが、他にももしそういった不満とか少しあるのであれば、そういう声もこの機会にすくい上げていただければいいかなと思っています。

事務局 ご意見ありがとうございます。今検討しております作業段階は、先ほどご説明させていただいた項目では実施設計を行っているところです。今回照明についてご意見いただきましたが、照明については、現行では蛍光灯や水銀灯等で構成されておりますが、これらはすべてLED化することを予定しております。

レイアウトすべてを変えるような大規模な改修は、今回は予定しておりません。あくまで中心となるのは屋上の防水、外壁の防水、それからクリーニング、あとは壁紙の一部張りかえ、そういったところで予定しております。しかしながら電気工事の部分では照明についてはすべてのLED化と、あと展示室の一部のスポットライトの変更、そういったところで構成を考えております。ギャラリーの利用については、どのぐらいの利用頻度でどのぐらいの規模で、どういった内容でということは我々も把握しているところですので、可能な限りそれに近い形での代替場所を用意できればよいと思っています。

しかしながら、公共施設では既にあるものしかございません。それ以外の民間の施設も含めて、今各方面と調整中だというような説明をしましたが、その中でどこまで環境をご用意できるかというところ、あとは費用面について、用意はできたけれど、従来から随分値段が上がってしまったら使っていただけなくなってしまうというところもありますので、そういったところとのバランスをとりながら、丁寧に進めていきたいと考えております。

■閉会 委員会閉会にあたり、特別館長からあいさつ。

次回は令和8年3月に開催予定。